

< J T Bグループ労働組合連合会 第3回震災復興支援陸前高田ボランティア活動レポート >

- 日 時：2011年11月12日（土）～11月13日（日）
- 場 所：岩手県陸前高田市
- 参加人数：37名（連合会幹事含む）
- 報 告 者：J T Bグローバルマーケティング&トラベル労働組合：小澤信夫

1. 活動に参加しての感想、並びに活動内容について

個人的には5月に開催の石巻ボランティアに続き今回が2回目の震災復興ボランティアの参加となります。今回の陸前高田についても、宿泊は実際の活動地からバスで大凡1時間程離れた北上駅を拠点として2日間陸前高田にアクセスしたが、初日陸前高田に到着するとそこには想像を絶する光景が広がっていた。5月の石巻と同じく、仙台から石巻にバスを走らせたその先にあった光景と同じような惨状がそこにはありました。

しかしながら、救いであったのは、この活動中に会った宮城・岩手の方々が決して後ろ向きになることなく、前を向いて生きていらっしやることでありました。我々はその方々や連合会としてボランティア活動を実施した各地域の復旧・復興を思い、この2日間微力ながら、瓦礫・ヘドロの撤去に当たった次第です。

1日当たりの実際のボランティア活動時間は大凡4時間程度ですが、30分～40分毎に10分の休憩を取りながら進めました。撤去すべき瓦礫やヘドロの大小・重軽様々ですので、2日間の活動体力を維持する為には最善の策と言えます。

陸前高田はテレビ・新聞等様々のメディアで報じられている通り、街そのものが津波で流されてしまっており、端的に表現すると何も残っていない、という言葉が当てはまるのでしょうか。今回はその中での活動でしたので、殆どの時間を上述の通り、瓦礫・ヘドロの撤去活動に費やしました。あまりに被災地域が広大な為、我々が2日間できたことは、塩の一欠けらにも満たないという悔しさや途方感を感じた仲間が多かったのではないかとおもいます。一方で、我々J T Bグループの仲間だけではなく、全国各地からボランティア活動に参加されている方々との励まし合い、声の掛け合いを通して、小さなことであるが、その積み重ねが必要であることも実感させられた2日間であった。

2. 今後の活動について

上述の通り、陸前高田に留まらず、東北太平洋沿岸部においては長期的な視野でのボランティア活動を通じた持続的な復興支援が真に必要なことを、2回の活動への参加で改めて認識しました。冬を迎えてしまうとなかなか支援が難しくなりますので、春先に再度の復興支援ボランティアの開催を予定しているとお伺いしておりますので、その際にも是非とも参加させていただいて、J T Bグループとしての持続的な復興支援への一助となることができれば幸いです。

以上